

2025 年 LAP 体験記

氏名: M ・ H

卒業年月:2024年 3月 卒業学部・学科: 表象文化学部 英語英文学科

派遣先学校名: Drouin Secondary College

LAP の期間:2025年 4月 22日 ~ 2025年 12月 19日(更新: 有・無)

1. 渡航前の準備・手続き

■ LAP開始までに、準備にしていた英語、日本語・日本文化に関わる学習があれば教えてください。

日本語教育に関する資格等は、同女で副専攻と日本語教員養成課程を修了しました。LAP に向けて、英語の勉強はしていましたが、語学学校に通うなどの本格的な勉強はしていませんでした。卒業後1年間は、百貨店の免税カウンターで働いていたので、仕事でも英語を使う環境でした。中国語と韓国語も接客用に少しだけ勉強していました。合わせて渡航前に同女で勉強した日本語教育に関する授業のプリントなどを見直していました。

■ 渡航までに必要となった手続き、またそれにかかった期間を教えてください。

・ビザの申請:4月の渡航に向けて、ビザの申請や、海外旅行保険の契約などが必要でした。私はビザの申請が遅くなり、2月後半に申請を完了させました。2月2日にビザを申請し、2月20日にビザがおりました。ビザの申請には、簡単な健康状態のチェック、英文銀行残高証明、海外旅行保険の英文証明などが必要でした。銀行残高は50万円ほどでしたが、ビザはおりました。また確か、ビザの申請に日本で使われている身分証明書の提出が必要だったと思います。免許証があると便利かもしれません。

・ビザの期間:ビザはプログラムから少し早い4月8日から、最終はプログラム後に旅行に行くかもしれないと思い12月末で申請しました。ビザのシステム上は12か月まで申請できるので、4月の頭から、3月末でも申請できるのかもしれませんが、プログラムは12月までですので、その申請が通るかは不明です。

・Working with Children Check:渡航後すぐに Working with Children Check という、子供たちに関わる業種に必要な書類を申請する必要があり、送られてきた書類を読むなど、準備を進めていました。この Working with Children Check がLAP開始日までに必要ということで、プログラム自体は4月22日からでしたが、4月11日にメルボルンに到着する航空券を購入しました。到着して銀行口座や電話番号を取得してから Working with Children Check を申請しました。

・ワクチン:私は過去にアメリカ留学のためにワクチンを何種類か打っていて、オーストラリアビザのために追加で打つ必要はありませんでした。私のオーストラリアのビザの申請時には、ワクチン接種証明などの欄はなかったように思いますが、事前に確認しておくと思えます。

・SIM:私は、オーストラリアに到着後に SIM を買いましたが、今思えば事前を買っておいた方が楽だったかもしれません。

- 受入校に事前に確認した内容(勤務時間、授業の進め方、服装、持参すべき教材など)を詳しく記載してください。

ヴィクトリア州の教育省の方のメールアドレスをいただいていたので、ビザに関しては、その方に質問しながら進めていました。受け入れ先の学校の日本語の先生と、Zoom でお話しさせていただく機会がありました。日本人の先生でしたので、そこでたくさん質問しました。ホームステイ先を学校の生徒のなかから探してくださっていたので、ホームステイ先の家族について、そこからの通勤方法、学校生活全般のルール、日本語を担当する先生方と生徒たち、車が必要かどうか、Working with Children Check についてなど、お話をお伺いすることができました。テキストについてもそこで質問し、学校のテキストを使わせてもらうことになりました。日本の免許証があれば、メルボルンの大使館でインターナショナルライセンスを申請することができると教えていただき、到着後すぐに申請する予定でしたが、結局やりませんでした。ホストマザーがいつも車を出してくれていたもので、運転する必要はありませんでした。メルボルン国際空港に着いたときに、赴任先の学校の先生が車でピックアップしに来てくださいました。そのまますぐに、銀行口座を開設するために銀行に連れて行ってもらいました。National Australia Bank にしました。オンラインバンキングもあり、とても使いやすかったです。勤務時間、勤務日数は LAP がはじまってから学校と話し合いました。服装は、一応スーツをもっていきましたが、初めの数週間以外はラフな格好で勤務していました。パソコンは持っていきましたが、学校のパソコンを貸してもらっていました。

- 特に早めに対応すべき手続きや注意点があれば具体的に教えてください。

受け入れ先が決まった時点で、メール等で連絡を取り、日本語の先生とやり取りをするのがいいと思います。私は、学校の先生がホームステイ先を決めてくださいましたが、他の LAP の方は、自分で探さないといけなかった方もいたようですので、そのあたりを確認するといいいと思います。また、私は LAP 応募の際に、赴任先の地域について、都市部にするか、郊外の町にするか、田舎にするかなど、チェックすることができたので、私は田舎以外の都市部と町にチェックを入れたのですが、実際に赴任したのは田舎でした。地図上で見るよりも、実際に行ってみるとより田舎だと感じました。赴任先について変更してもらえるかわからないですが、通勤にバスや電車が使えないような地域の場合は、教育省や先生方に早めに相談した方がいいと思います。私は、赴任先は田舎でしたが、ホストファミリーはとてもいい方で、車が必要なときはいつも駅や学校まで車を出してくださいましたし、学校も面白くて最終的にはとてもいい経験だったと感じています。学校へも徒歩圏内ですし、駅からも歩けない距離ではなかったため、問題なく過ごせました。ほかに LAP の知り合いが3人いますが、他の方々は都市部や町に赴任されていたと聞いていますので、ものすごく不便なところになる可能性は低いかもしれません。あとは、ビザに必要な銀行残高証明書や海外旅行保険の書類は、時間がかかるので早い方がいいと思います。

2. 現地での生活環境

- 滞在方法やその状況について、具体的にご記載ください。

学校の生徒の家でホームステイしました。高校3年生の男子学生と、そのお母さんの2人家族でした。お母さんは、日本語が話せないので、英語でコミュニケーションをとっていました。生徒は日本語を勉強していてかなり上手だったので、日本語でも話をすることができました。食事込みの1週間200ドルで泊めていただいていたので、相場よりとても安く泊めていただいていたので、日本に帰った時にはお土産をたくさん渡していました。私は普段から朝ごはんを食べず、昼ご飯はスーパーで買ったシリアルバーを食べていたため、ホストファミリーには毎夕食を出していただいていたので、休日などは、朝食、昼食を出してもらうこともありました。とても料理上手なお母さんで、オーストラリアの伝統的な料理から、ギリシャ料理やアジア系の料理など、おいしい料理をたくさん食べさせてもらっていました。ホストファミリーは魚が苦手なため、家でお寿司を食べることはありませんでしたが、ドルーインにある日本食レストランに連れて行ってもらっていたので、よくお寿司やラーメンを食べていました。ドルーインは、メルボルンから東に100キロほど行ったところです。ホストファミリーは、オーストラリアのいろいろなところに連れて行ってくれました。生徒もとてもいい子で、友達に私を紹介してくれたので、他の生徒たちとすぐに仲良くなることができました。ホストファミリーがインラインスケートを趣味にしていたので、たまにスケートに連れて行ってもらっていました。シャワーの時間制限などありませんでした。ホストファミリーは犬を飼っていて、そのうえ家で他の家の犬の世話をしている仕事をしていたので、家に帰るとたくさん犬がいることもありました。とても楽しかったです。ホームステイを希望される方は、赴任先の学校にホームステイできるかどうか聞いてみるのもいいと思います。

■ 通勤方法や交通費、現地での移動に便利だった手段を具体的に教えてください。

徒歩で通勤しました。15分ほどでしたが、雨の日などはたまにホストマザーに車で送ってもらっていました。メルボルンからドルーインまでは、Vラインという電車を使っていました。なので、メルボルンに行きたいときは、ドルーインの駅までホストファミリーに車で送ってもらって、そこから、Vラインに乗って行きました。ドルーインからメルボルンまでは、だいたい1時間40分くらいです。電車の中は、基本的にいつも空いていて、静かで快適です。往復で20ドル程度かかったと思います。Vラインは1時間に1本程度です。Vラインやバス、電車に乗るときは、マイキーカードというものを使います。駅で簡単に作ることができるので便利です。メルボルン市内はトラムや電車があり、とても便利です。メルボルンからメルボルン空港が少し遠くて、電車では行けずバスしかありません。場所によっては空港に行くのが大変かもしれないです。メルボルンの東側には、Gippsland Skylinerという個人タクシーのような送迎バスがあって、電車よりはかなり高く80ドルほどかかりますが、ドルーイン駅から空港まで送ってくれます。一度利用しましたが、とても快適でした。

■ 現地で生活する中で困ったことや、事前に知っておけばよかったことは何ですか？

思っていたよりも寒かったです。季節が反対なので、日本が夏の時に冬なのですが、とても乾燥していて寒いです。雪は降りませんでしたが、風が冷たくてつらかったです。オーストラリアの12月は夏ですが、今年は異常気象なのか、ずっと20度を下回っていて、寒かったです。最後の1週間しか夏服を着ませんでした。カイロは現地で売っていなかったと思うので、持っていくと便利です。服は、メルボルンにたくさん売っていますし、ユニクロや無印など、日本のメーカーも主要な駅のモールにはありますので、冬服をたくさん持って行っておいて、半袖だけ向こうで調達するくらいがいいと思います。夏は、日本のほど湿気がないので空気は快適ですが、年中通して日差しが本当に強いです。日が出ていると、焼けるような痛みがあって、暑いです。陰に入ると、かなり涼しいです。日焼け止めはどこでも買えますが、日本のものを持っていきたい場合は持って行った方がいいと思います。

治安は、比較的好い街に住んでいましたが、夜に外に出歩くことはしませんでした。ホストマザーによると、一部の地域(ダンディノンなど)は治安が良くないそうで、そこには乗り換えなどでも行かないようにしていました。

病院は、保険が対応しているところでない、ものすごくお金がかかると思います。また、歯科治療は保険適応外なことが多いので、日本で治療を済ませた方がいいと思います。また、ほとんどが予約必須で診察まで時間がかかると思います。一度風邪をひきました。日本から、ロキソニンと風邪薬を持っていったので、病院には行かず、寝て治しました。龍角散ののど飴を日本から持ってきていたので、のどが痛いときになめていました。オーストラリアのお菓子はとてもおいしいので、基本的に食べ物に困ることはありませんでした。

日用品の困ったことについてです。コンセントについては、形と電圧が日本と違うので、変圧器が必要です。日本からドライヤーを持って行ったのですが、オーストラリアの電圧が強すぎるからか、使っていると燃えるように赤くなって焦げたにおいがするようになったので、一時帰国した時に新しく海外対応のドライヤーを持っていきました。オーストラリアでもドライヤーを買うことができますし、安いものだと20ドル程度だったと思います。また、化粧水がなくなったとき、なかなか近くのスーパーでいいものを見つけることができませんでした。私は、結局メルボルンの無印良品で化粧水を買いました。

■ 長期休暇は何月頃で、何をしていましたか？

1年で4タームあり、約3か月の学期の後で、2～3週間の長期休みがありました。4月に赴任してから、7月5日から7月20日まで、9月20日から10月5日まで、LAP 終了後の12月20日から帰国までの3回の長期休みがありました。初めの2回の長期休みはいずれも用事があったため、日本に帰りました。そのほか、他の LAP 参加者と連絡を取って休みにメルボルンを一緒に観光したり、長期休み以外の国民の休日があった11月頭にケアンズに旅行に行ったり、しっかり休みがありました。長期休みについては、Victoria School Holiday 2026 と調べてもらうと教育省が発表しているカレンダーを見ることができます。2026年以降のカレンダーも発表されていると思うので、2027, 2028という風に調べていただくと出てきます。長期休みは、教育省が発表しているものと、学校での実際の休みが異なることがあります。そのほか、長期休みに日本への研修旅行をする学校が多く、場合によっては参加することになるかもしれません。その場合は、旅行にかかる費用は学校や生徒が負担することになると思います。私の学校でも2025年7月に日本への研修旅行があり、私は引率として参加する予定でしたが、結局は学校の判断で別の先生が引率することになりました。また、12月末のクリスマスホリデーあたりは飛行機のチケットが高騰しますので、早めに帰りのチケットを買うことをお勧めします。

3. 勤務内容と役割

■ 日本語授業でどのような業務をしましたか？

日本語クラスで先生のアシスタントをしていました。ドルーインセカンダリーカレッジは、Year7 から Year12までの6学年がいる学校で、全校生徒は1300人ほどでした。Year7 と Year8はフランス語か日本語の外国語が必須科目だったので、各学年の半数が日本語を勉強していました。Year9以上からは選択科目で各学年クラスは1つずつでした。Year7と Year8は、それぞれ1クラス20人程

度、4クラスの授業を見ていました。Year7、8は超初級のクラスで、日本語の数字や基本的な挨拶表現、時間やひらがなを勉強していました。あたらしい単語の発音を練習したり、漢字をホワイトボードに書いたりしていました。Year9以上のクラスでは、本格的な文法の勉強が始まり、会話の練習相手になったり、スピーキングのスクリプトを一緒に作ったり、添削したりしていました。特に、学期末に試験のある12年生は、口頭試験のスピーキングの練習をたくさんしていました。そのほか、テストのマークなどをしていました。教材作成の仕事もたくさんしました。先生から、こういった単語カードを作してほしい、プリントを作してほしい、といったことを依頼させるので、それを作っていました。学校にコピー機もラミネートもあったので、お金を使う必要はありませんでした。オーストラリア人の先生の授業では、先生の発音や文法の確認をしました。座学よりも日本文化の勉強やアクティビティの多い学校だったので、アクティビティの準備を手伝っていました。こういうアクティビティをしませんか？と提案すると、採用してくださり、私の意見をくみ取ってくださる先生方だったので、色々なアクティビティに挑戦することができました。先生が休みの時は、授業を任せていただくこともありました。

■ 授業準備や指導で工夫したこと、難しかったことを具体的に教えてください。

日本文化を英語で説明するのはとても難しかったです。事前に先生方と相談させていただける機会があったので、先生に英語での説明を手伝っていただきました。また、生徒の話す英語が速すぎたり、省略が多かったりと、話しかけてもらっても、その内容を理解するのは難しかったです。いつもハチャメチャな英語を使っていた自覚があり、生徒のやさしさと理解力で成り立っていた部分が大きかったと思っています。はじめは、生徒と話すのもとても緊張していたのですが、最後にはたくさんおしゃべりができるくらい仲良くなりました。

また、家庭環境が複雑な子が多く、親からの愛が注がれていない分、学校で暴れたり授業の邪魔をしてしまったりする子供がいました。なかなか心を開いてもらえないこともありました。また、ADHDなどで勉強や集団行動が苦手な子どもが多く、特に中学生のクラスでは、半数以上がそのような診断を受けているクラスもありました。そのようなクラスでは、先生の話のをさえぎってしまったり、エネルギーがありすぎてじっとしていられなかったりする生徒が多く、オーストラリア人の先生ですらまとめるのが難しいようでした。そのような生徒は、きつく指導してしまうと、敵とみなして心を閉ざしてしまうようで、やさしく声をかけたり、本人が興味のある話をしたりして、少しずつ距離を縮めていきました。中学生は言語が必須科目のため、日本語を勉強する意義を見いだせていない生徒が多かったです。そういった理由で、座学よりもアクティビティの授業が多かったです。話している英語が難しく、コミュニケーションをとるのが大変な子もいましたが、英語を理解できていないなりに聞き役に回って、ゆっくりコミュニケーションをとっていました。

■ 1日のスケジュールや週の勤務時間の目安を教えてください。

朝8:50に出勤して、15:30に退勤していました。週5日働いていましたが、LAPの契約上は週4でいいそうです。週4の場合、1日の勤務時間が長くなるのだと思います。私は、家に帰ってもやる事がなかったので18時くらいまで残業したりすることもありましたが、先生たちはみんなすぐに帰るので、残業しないといけないような空気感はありませんでした。私は、ビジネスマネージャーと話をして、早く出勤するのが大変なこと、できるだけいろんな授業を見た方がいいと思い、それらを考慮して週5日働いていました。

■ 最も思い出に残っていることは何ですか？

たくさんありますが、12年生とは一番授業の数が多かったので思い出がたくさんあります。最終試験に向けて、会話やライティングをたくさん練習しました。だんだん私に心を開いてきてくれて、試験内容のほかにもたくさん話しました。練習すればするほど上手になっていったので、とても教えていて楽しかったです。最終試験の口頭試験の後の12年生たちのやりきった顔をとてもよく覚えています。また、12年生の卒業パーティーはとても思い出に残っています。Valedictory Dinner というもので、生徒や先生はみんなフォーマルな服を着て、最後に表彰などを行います。日本からオケージョンドレスを持っていき、ホストファミリーや先生方と参加しました。そのほかは、生徒たちとアクティビティに参加したのが思い出深いです。10年生とは、二人羽織、習字、テクノうどん。9年生とは、藍染め、買い物ロールプレイや、お好み焼きレストランへの遠足。8年生とは、凧揚げやトレジャーハントゲーム。7年生とは、おにぎりづくりや、ラムネ体験、トントン相撲など、さまざまなアクティビティを楽しみました。

4. コミュニケーション・文化体験

■ 教員や生徒とのコミュニケーションで心がけたこと、役立った表現や方法など、あれば教えてください。

初回の授業までに、先生に生徒の顔写真と名前の一覧をもらいました。初めの数週間で生徒の名前を覚えて、すれ違った時には挨拶をするようにしていました。先生たちは、とてもフレンドリーで、すぐ仲良くなりました。

■ 現地文化や学校文化で驚いたこと、印象的だったことを具体的に教えてください。

学校は先生と生徒の距離が近く、たまにリスペクトに欠けた態度をとることもありますが、基本的にはフレンドリーでいい雰囲気です。また、先生の働き方もかなり違っていました。校長は1人でしたが、教頭は5人いて、何かあったときに責任をとってくれる人が多く、その分先生方はスペシャリストとして授業に集中できる環境が整っていました。先生たちはミーティングをよくしていて、そこでは授業の進度から生徒の家庭状況まで詳しく共有し合っていました。科目を超えて先生同士が協力することもあり、日本語のクラスでも、習字の授業ではアートの先生、うどんやおにぎり、餅つきの時にはフードテクノロジーの先生にご協力いただきました。校長や教頭を含め、先生たちはみんなお互いをファーストネームで呼び合うので、とても距離が近く、仲がいい印象でした。先生方は、パーティーや楽しい催しが大好きで、年度末には先生方の表彰があり、クリスマスパーティーや、スタッフランチ、スナックなどが学校から提供されていました。先生やスタッフが学校のためにいい働きをしてくれた時に、その人をたたえる意味で投票をする制度があり、私もチョコレートをいただいたことがあります。職場の雰囲気はとても良く、楽しく過ごせました。また、よく校外学習や遠足があり、日本語クラス以外の遠足にも参加させていただきました。遠足や校外学習にはお金がかかることがあり、毎回30ドル程度は使っていたように思います。フランス語の授業では、フランス料理店へ、バイオロジーの遠足でフィリップアイランドへ行きました。

学校の生徒たちは、田舎だったのもあり、生徒のほとんどが白人でした。ほかの学校では、移民がほとんどでインド系や中国系の名前ばかり、ということも多いそうですが、私の赴任先は、アジア系がとても少なかったです。また、生徒たちはステップファミリー(日本でいう養子縁組に近い制度)が多く、産みのお母さんと育てのお母さんの2人の母親がいる子や、親がおらず支援センターで暮らす生徒がいました。先生方は、例えば授業のことで連絡する際は、育ての親じゃなくて産みの親に連絡すること、

この生徒の両親は別居しているから、連絡は父親じゃなくて母親だけにすること、など、生徒の各家庭について綿密に状況を報告しあっていました。

印象的な点について、オーストラリアでほかの家庭を見させていただいた際、調理家電がたくさんありました。私のホストファミリーもそうでしたが、自炊をする文化があるようでした。日本のように、電子レンジで簡単にできる、というものよりは、色々な調理器具を使って、時間と手間をかけて丁寧に料理をしていたのを見て、とても影響を受けて、日本に帰ってから私自身も料理をするようになりました。

5. 参加を通じて得たこと

- LAP 参加を通じて学んだことや成長した点を具体的に教えてください。

はじめは、先生として生徒の前で話すことに緊張や照れがありましたが、今はだいぶ慣れたと思います。英語での会話も、以前よりはスムーズにできるようになったと感じています。日本語教員としての知識やスキル以上に、子供たちとの関わり方や、コミュニケーションの取り方を学べたと思います。

- 次に参加する学生へのアドバイス(準備、心構え、持っていくと便利なものなど)を記載してください。

日本風の手紙やカード、折り紙などは、現地にダイソーがあるので調達できますが、やはり種類が少なく、値段も3倍(100円のが300円)になっていますので、日本で用意して持っていくのがいいと思います。オーストラリアでは、誕生日や感謝のしるしとしてメッセージカードを渡す習慣があり、スーパーでも普通に買うことができますが、日本風のをあげると喜ばれると思うので、メッセージカードや便箋があるといいと思います。そのほか、日本風のポストカードやシール、飴、キーホルダーなどを持っていきました。飴やチョコは特に反応が良かったです。日本の学校と雰囲気が違って、生徒が活発なのでびっくりすると思いますが、すぐに仲良くなれると思います。オーストラリアの学生は、見た目が大人っぽいので話しかけるときは緊張しますが、中身は日本の中高生と比べるとかなり幼いと思います。かわいいものやカッコいいもの、面白いものが好きで、ピュアで話していてとっても楽しいので、話しかけてみるといいと思います。

6. 今後の進路

- 現時点での将来の夢や目標、または LAP 終了後に希望される進路(進学や就職の分野など)があれば、教えてください。

日本で日本語教員になろうと思っています。日本語学校の採用選考に進んでいます。将来的には、オーストラリアで日本語の先生をすることも考えています。そのためには、オーストラリアの大学院に行く必要があり、費用がかなりかかるので、まずは日本で就職するつもりです。

2025 年 LAP 体験記

氏名: Y・J

卒業年月:2025 年 3 月 卒業学部・学科:学芸学部 国際教養学科

派遣先学校名:

・Brentwood Secondary College

・Mount Waverley Secondary College

・Glen Waverley South Primary School

LAP の期間:2025年 4 月 22 日 ~ 2025 年 12 月 19 日(更新: 有・無☒)



1. 渡航前の準備・手続き

- LAP開始までに、準備にしていた英語、日本語・日本文化に関わる学習があれば教えてください。

日本に関する基本的な情報や、歴史や、食文化や、学校などについて復習しておきました。現地の学校から、自己紹介のプレゼンテーションをするように事前に頼まれていたので、その準備をしました。

- 渡航までに必要となった手続き、またそれにかかった期間を教えてください。

・Temporary Activity Visa の取得(数週間から 1 か月でしたが、銀行で英文の残高証明書を発行し、他にも揃えないといけない書類が多く、とても時間がかかったので、早めに取り掛かることをお勧めします。

・Working with Children Check の申請（渡航の約 1 か月前に申請して、現地の郵便局で受け取りました）

- 受入校に事前に確認した内容(勤務時間、授業の進め方、服装、持参すべき教材など)を詳しく記載してください。

適切な服装について、ベーススクールに確認しました。プロフェッショナルな服装や、オフィスカジュアルが好ましく、デニムや T シャツ、フードがついているスウェット、ミニスカートやミニドレス、短いズボンは控えるようにと言われていました。ですが、実際に学校に来てみると、カジュアルな服装で来ている先生や、デニムで来ている先生も多くて、フォーマルすぎると逆に浮いてしまいました。

2. 現地での生活環境

- 滞在方法やその状況について、具体的にご記載ください。

はじめの 1 週間は、現地の学校の先生の家にホームステイさせてもらいました。その後、Flatmate というアプリでシェアハウスを探して、大学生 2 人とタイ人の家主が住んでいる家に移動しました。最初に、deposit として 1 か月分の家賃を払わなければいけなかったのもので、最初の月の家賃は 2 か月分払いました。

私が住んでいた Glen Waverley というエリアは、たくさんアジア人が住んでいる地域で、アジアンスーパーマーケットもあり、日本の食材や日本食を手に入れることができました。なので、毎日自炊していました。

- 通勤方法や交通費、現地での移動に便利だった手段を具体的に教えてください。

3 校全て、バスを使って通学していました。バス停から歩く時間も含めて、家から片道約 30 分で、往復約 6 ドルかかりました。

- 現地で生活する中で困ったことや、事前に知っておけばよかったことは何ですか？

バスが 5 分ほど早く出発していたり、10 分ほど遅れたりすることがよくありました。バスが来なかったことも 1 度ありました。Ventura というアプリで、バスの位置情報を知ることができるので、おすすめです。また、Google Map で見るバスの情報も時々間違っているのもので、バス停にある時刻表を見るのが 1 番正確だと思います。

また、公共交通機関に乗る際、Myki というカードが必要になります。特にバスで、Myki カードをタッチせずは無賃乗車している人がたくさんいましたが、必ず払うようにしてください。私は、1 度 Myki カードを持っていくのを忘れて、バスに乗るとたまたま Myki Inspector がいて、警告を出されました。そのときは警告だけで済みましたが、無賃乗車の罰金は 280 ドルなので、気を付けてください。

- 長期休暇は何月頃で、何をしていましたか？

7 月と 9 月に、スクールホリデーが 2 週間ずつありました。ケアンズに旅行に行ったり、友達と遊びに行ったりしました。

3. 勤務内容と役割

■ 日本語授業でどのような業務をしましたか？

【中学・高校】

・ビクトリア州の高校には、VCE という大きな試験が高校3年生の最後にあります。その試験のために、ほとんど毎日、特に高校3年生と、日本語の会話試験の練習をしました。

・ライティングの課題の丸付け

・授業トピックについてプレゼンテーション(日本の学校生活や給食、日本の偉人、など)

・教室を見回って、質問がある生徒や授業が難しそうな生徒の手伝い

・アクティビティの進行

【小学校】

・お昼休みに行われる日本語クラブで、折り紙の作り方を教えました。

・授業が難しそうな生徒のお手伝い

■ 授業準備や指導で工夫したこと、難しかったことを具体的に教えてください。

・3校で働いていたので、スケジュール的に、2週間に1回しか見れないクラスがあったりして、毎回行くたびに授業のトピックが変わっていきなりしたので、自分がいない間に何を習ったのか把握することがとても難しかったです。なので、丸付けを任せてもらったり、教科書を貸してもらったり、家に帰ってから授業スライドを見たりして、何となくどんな漢字や文法や単語を学んだのかを知るようにしていました。

・中学3年生から高校3年生までのクラスで会話練習をしていて、その子の学年が習った文法に合わせて質問したり、話したりすることが難しかったです。また、特に高校3年生の会話練習のフィードバックで、どう間違っているのかを英語で伝えることに苦戦しました。自分の英語力の問題でもあります。自分は日本語を第一言語として話すから、細かいニュアンスや文法を知らないことが多かったです。

例えば、なぜ「〇〇の興味が増えました、上がりました」は文法的に不自然であり、「〇〇の興味が深まりました」が自然な表現であるか、など。

■ 1日のスケジュールや週の勤務時間の目安を教えてください。

朝 8時半 出勤

1、2時間目の授業(中高は1クラス約45分から50分で、小学校は1クラス1時間)

休憩時間(約40分)

3、4時間目

昼休み

5時間目 終了 15時

退勤

■ 最も思い出に残っていることは何ですか？

海外の学生と関わることは初めてだったので、とても緊張して、心配していましたが、オーストラリアに来ると、生徒が本当に素直で、真面目で、いい子たちだったことです。また、中学3年生以降は言語のクラスは選択科目になるので、本当に日本文化や言語に興味がある学生しかクラスにいなかったの
で、自然と仲良くなりやすかったです。

4. コミュニケーション・文化体験

■ 教員や生徒とのコミュニケーションで心がけたこと、役立った表現や方法など、あれば教えてください。

テストが終わって、スクールホリデーに入る前や、少し日本のお菓子の差し入れやちょっとしたプレゼントをクラスで渡すととても喜ばれました。日本っぽいスタンプやシールもすごく人気だったので、仲良くなるきっかけになるかもしれません。現地文化や学校文化で驚いたこと、印象的だったことを具体的に教えてください。

■ 現地文化や学校文化で驚いたこと、印象的だったことを具体的に教えてください。

学生が、授業中に全く寝ないことです。(笑)

5. 参加を通じて得たこと

■ LAP 参加を通じて学んだことや成長した点を具体的に教えてください。

オーストラリアはもちろん、他のいろいろな国の文化の理解が深まったことです。様々なバックグラウンドを持つ先生や生徒や、友達がいたので、異文化を学ぶことが好きな私にとって、とてもありがたい環境でした。

■ 次に参加する学生へのアドバイス(準備、心構え、持っていくと便利なものなど)を記載してください。

メルボルンは冬が本当に長くて、滞在中ほとんど冬だったので、たくさん冬服を持っていくことをおすすめします。

8か月間は本当にあっという間なので、たくさん楽しんでください！

6. 今後の進路

- 現時点での将来の夢や目標、または LAP 終了後に希望される進路(進学や就職の分野など)があれば、教えてください。

LAP を通じて、日本語教育に興味を持ったので、帰国した後に大学院に行って、日本語教育を学んでみたいと思っています。

